

+++++  
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第71号 2020年11月7日発行  
+++++

ビワやヤツデの花も咲き、もう冬の匂いがし始めました。30年ほどお世話になっていた近所の商店街にある豆腐屋さんが高齢のために53年続けた店を閉じました。店先にはお客さんたちから贈られた沢山の花々が飾られ、店の前を毎日通学していた小学生たちも名残を惜しんでいました。会話できる商店街が大事です。野菜はできるだけ地元農家のものを農協で買っています。近所の家々も世代交代か、次々と建て替えられて景色が変わっていきます。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、そして真情を見いだしては称賛し、共感し、結び励まし合いたいですね。「季節の花々」では、ささやかな散歩道や日帰り探索も掲載しています。

皆様も冬を忍び、春を待ちながら、十分に注意をなさり、どうぞお大事にお過ごしください。

#### ○お知らせ

1. 植物と人々の博物館をめぐるミューゼス研究会、雑穀街道普及会などの在り方について、10月16日に亀井さん、黒澤さんと話し合い、地域おこし協力隊の若い人たちにも話してみようということでした。

また、植物と人々の博物館について西村さん、藤盛さん、黒澤さんと協議をしています。年内に皆様にも植物と人々の博物館の在り方、将来計画についてご意見をうかがいたいです。

研究員や友の会会員になって、書籍や資料などを活用していただけると嬉しいです。COVID19の感染が小康状態になったら、資料整理や雑穀見本園の草取りに行きます。

#### ○予定：

##### 1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日：2021年春までは引き続きウイルス対策のため休館しますが、必要がある方は御連絡下さい。

2) 雑穀の種子継：小菅は秋子さん、藤野では宮本さん、秩父では佐野さん、厚木では玉木さんらが種継をしてくださっています。小金井でも、ささやかにプランタで栽培して種継をしました。生育状況は下記サイトでお見せしています。

小菅では良い種子が十分採種できましたので、是非栽培していただきたく、必要な方に来年用種子を差し上げます。こちらから播くディル種子を差し上げます。ディルはイギリスのキュー植物園で買ってきて10年以上自家採取していますが、順次間引きしながら半年は楽しめます。

[www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html](http://www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html)

3) **民族植物学ノオト**： 第 14 号に、植物と人々に関する随筆など、ご寄稿を歓迎します。電子出版ですからカラー写真も大丈夫です。年内にご原稿を頂ければ嬉しいです。今号に、編集子は山村社会について 40 年余りの経験进行分析、熟考したエッセイ 2 編（第一論考、第二論考）を載せます。3 部作ですが、第三論考「素原の超個人主義」（理論編）は下記ホームページのエッセイに既に掲載しました。第二論考の一部として降矢静夫さんとの対談録音テープをドラゴン・ボイス 11J で文章化しています。

[www.milletimplic.net/essey/essey.html](http://www.milletimplic.net/essey/essey.html)

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。

メールマガジンもすべて記録してあります。すべて費用はかかりません。

[www.ppmusee.org/goods.html](http://www.ppmusee.org/goods.html)

4) **電子書籍**：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。これらは国立国会図書館の e デポに登録され、公開されています。

『**雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から**』『**日本雑穀のむら**』は一部公開、改訂しています。第五章中部・北陸地方の雑穀文化複合の補論 5 赤石山脈周辺の雑穀の変異と系統について公開しました。

『**第四紀植物**』は、はじめに、序章、第 1 章草本植物の出現、第 2 章サギゴケ属、第 3 章タネツケバナ属、第 4 章イヌガラシ属までを公開しました。植物の栽培化が始まる前の一年生草本の進化の様態を実験データで提示し、考察しています。今後、第 5 章以降からイネ科植物の栽培化過程について記述します。

[www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html](http://www.milletimplic.net/weedlife/flowers.html)

“**Essentials of Ethnobotany**”の一部公開はまだ先になります。これらは書き終えたら、電子出版にします。

#### 5) **森とむらの図書室**

**寄贈冊子**：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。**会員雑誌**：雑穀研究、環境文明 21 会報。

6) **今月の図書**：人間の進化について、今後も考えていきます。発行人は植物学専攻で良かったです。社会ダーウィニズムにたいして適度な距離をおけるからです。COVID19 の猖獗する今、直接対応のみでなく、近い将来を見て日本の基盤、特に生業、教育、環境、基盤産業、エネルギー、をよく再検討、再構築する国の政策が必要です。また、個人の自律、自給知足、さらに個人を超える拡大個人の教養・思い遣り、第 7 感（良心）への『内面への道』（ヘッセ）、すなわち良い方向への文化的進化を深慮したいです。

なんとか希望を探したいものです。

加藤三郎さん(2020)からご著書『危機の向こうの希望』をご寄贈いただきました。R.ケインズ 2001(渡辺政隆・松下展子訳 2003)『ダーウィンと家族の絆』長女アニーとその早すぎる死が進化論を生んだ、白日社。N.クリスタキス 2019(鬼澤忍・塩原通緒訳 2020)『ブループリント』(上)(下)「よい未来」を築くための進化論と人類史、ニュースピックス、東京。

## 7) 雑穀などの腊葉標本

東京学芸大学環境教育研究センターに整理してきた東京腊葉会の標本を東京都立大学牧野標本館に移管することについて、東京腊葉会の了承を得ました。小菅村の植物と人々の博物館にある標本も移管する方向で検討しています。

## 2. 雑穀街道普及会：

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。

雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げていってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。ぜひ、賛同者リストに加わって下さり、提案が広がるようにご援助くださいますよう、世界、全国各地からのご連絡を宜しく願います。雑穀街道沿いの地場産物や活動の訪問紹介も掲載することにします。

\* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974~2017)をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpmilvil.html>

## ○ お知らせ

皆様方は既に予感しておいででしょう。これからは一層厳しい時代に入るでしょうから、家族を守るために本気で心して自給知足の努力や食料備蓄を心掛ける必要があると思います。

家族の食べ物は自分たちで得ること(生業)が原則で、足りない食べ物を分けていただいていること(農林漁業)に感謝したいです。すべて消費、廃棄だけでは、生き物の文明、素のままの美しい暮らしには添いません。

専任研究員は、日本国憲法に環境原理、生業の自由、食料主権などを明文化する提案をしています。

国民・市民は自分たちを守るための条文を憲法に明記するように考える必要があります。

既にいくつかの国々では明文化されています。

## 小金井環境市民会議

小金井市環境基本条例第7章環境市民会議、第27条には要約すると、市民らが環境市民会議を置き、環境保全施策などについて市長に意見を述べることができ、市はその活動を支援するとの趣旨があります。

市民会議や市民のこれまでの環境保全活動の蓄積を大切に評価して、再生、継続してほしいです。

## トランジション・ジャパン

ご関心の方は参加ください。エコミュージアム日本村（トランジション小菅）もネットワークに参加しています。イギリスのサイトに登録するようにお願いしました。また、研究員はトランジション小金井（TTK）の会員でもあります。

## 家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン（国連家族農業の10年）

ご関心の方は是非ご入会ください。研究員個人として賛同し、会員になり、ホームページに意見を掲載していただいています。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

連絡先は下記です。

E-mail: [info@ffpj.org](mailto:info@ffpj.org) URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/> Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

~~~~~  
自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）、川上香（長野）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>  
~~~~~

木俣美樹男 Mikio KIMATA [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

植物と人々の博物館／日本村塾 研究員塾生

Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum

公式 HP : <http://www.ppmusee.org>

個人 HP: <http://www.milletimplic.net>